# 全国小学生バレーボール指導者講習会
# 講義資料

審判規則委員会

全国小学生バレーボール指導者１次講習会
『バレーボールのルールと審判法』講義の内容

| 内　　容 | 留　　意　　点 |
|---|---|
| １．ＪＶＡの目的について | ・ＪＶＡが平成２３年から公益財団法人になった。定款を基にして、すべての事業が成り立っている。 |
| 公益財団法人日本バレーボール協会　定款<br>第２章　目的及び事業<br>（目的）<br>第３条　この法人は、わが国におけるバレーボール界を統轄し代表する団体として、バレーボール競技の普及及び振興を図り、もって児童・青少年の健全な育成及び国民の心身の健全な発達に寄与し、または豊かな人間性を涵養することを目的とする。 | |
| 小学生バレーボール連盟規約　第二章　目的　　第２条<br>本連盟は、わが国における小学生バレーボール団体を統括し、小学生バレーボールの普及発展を図り、もって、小学生の心身の健全な発達に寄与しその育成に努めることを目的とする。 | |
| ２．指導者講習会で審判法の講義をすることの意義について | 小学生バレーの指導をする目的は勝つことだけではなく、バレーボールの指導や試合を通して子ども達の心と体の健全な成長を支えていくことである。<br>これは審判員も同じで、指導者と審判員は、お互いの立場を尊重し合いながら共に手を取り合っていくことが大切であり、お互いが立場を超えて子ども達の為に学び合う姿勢が必要だと考えている。 |
| ３．ルールの基本的な考え方について<br><br>※ルールブック９７ページ参照<br>小学生バレーボールフリーポジション制競技規則 | ①　ルールをどう解釈するか<br>６人制競技規則は基本的にオリンピックやワールドカップなど、国際試合に適用するルールとして考えられている。６人制のルールや審判の判定スタイルは、世界のバレーの進化により修改正が行われながら変わってきた。<br><br>②　小学生の競技規則も、子ども達が無理なく安全にプレーできるように進化してきた。<br>例→　・バック固定制からフリーポジション制へ<br>・セット取得の条件（２１点先取）<br>・コートの規格<br>・ＴＴＯ採用（安全面の考慮）<br>・競技者交代１２回（出場の機会を増やす）<br>・ペネトレーションフォールト（安全面の考慮）<br>・タッチネットの先行実施（安全面の考慮）<br><br>③　ルールを自分の都合のいいように解釈してはいけない。ルールに明記されていることだけでなく、ルールに明記されていないことも、 |

| | |
|---|---|
| | どのように解釈していくのが小学生バレーボールにとって良いことなのかを、さまざまな様式をふまえて考えることが大切である。<br>また、子ども達のために作り変えていくことも必要だと考えている。 |
| ４．審判をするにあたっての心構え | ①公正・公平<br>正確な判定を心掛ける。特定のチームに有利不利にならないよう公正・公平を心に留めることが大切である。ルールは全ての選手とチームに平等である。 |
| ※ルールブック８２ページ参照<br>公式ハンドシグナル | ②態度や言動<br>審判として判定にあたると時には失敗もあるだろうが、一つ一つのプレーを丁寧に見て、一生懸命審判をしているという態度が大切である。台上での自信がなさそうな態度は、チームに不信感を与え、子ども達が試合に集中できない原因となる。特に、ハンドシグナルは誰にもわかるように大きくはっきりと示す。<br>笛の音はラリーを止める合図。事故防止の観点からも、みんなに聞こえるように強く大きく吹く。<br>審判としてキャプテンに対応する場合は、キャプテンがルールの説明を理解し、チーム選手に正しく伝えられるよう、何がいけないのかわかりやすく簡潔に説明することが大切である。 |
| ※ルールブック７０ページ参照<br>不法な行為とその罰則 | ③　ライン判定に対しては、大人（主審）が責任を持って最終判定をする。そのために、確実にしっかりと見なければならない。ラインジャッジの子どもに対してベンチスタッフ（大人）がクレームを言うケースは、その場ですぐに失格とする。自分の都合で子どもに文句を言うような行為は、暴力と同じである。<br>大人は子どもに責任を押し付けてはならない。 |

・ルール２０．１．１　※ ルールブック６９ページ　競技参加者の行為

**競技参加者は、公式バレーボール規則に通じていなければならない。また、それを忠実に守らなければならない。**

・ルール２０．１．２

**競技参加者は、審判員の決定に対し、スポーツマンらしく反論せず、受け入れなければならない。**

| | |
|---|---|
| | 指導者はルールを知り、ルールを守るという姿勢を子ども達に示していくことが大切である。 |
| ５．指導者として | ①　指導者がルールを知り、ルールを守ることは、子ども達にルールを守る大切さを伝えることに繋がる。大人のルール違反は、子どもに不安を感じさせたり、不信感を持たせることとなる。子ども達がバレーボールを通して健全に育つために、大人の役割や責任が大きいことを認識して欲しい。 |
| ルールブック３４ページ参照 | |

| | |
|---|---|
| チームリーダー<br>5．1 キャプテン | ② 選手一人一人に役割を持たせることは、チームの一員であることの自覚や自立心を育てる。キャプテンには、正しい判断力と、思考力などのリーダー性を育てることが大切である。<br><br>③ 最近は、応援の保護者や子どもが観客席から判定に文句を言うケースがある。本来応援のスタイルはエールの交換から始まるように、相手を尊重する意思が必要であり、全ての子ども達に惜しみない拍手を送るべきである。指導者としてクラブを健全に運営していくために、毎年替わる保護者に応援のあり方なども伝えて欲しい。 |
| 6．その他 | ① 地震の際の誘導のしかたなど、いつ起こるかわからない事故や災害に対して、指導者は危機管理意識と防災意識を持って欲しい。<br><br>② 多くの様々な子ども達がバレーボールをできるようにしてほしい。能力や障害などによって子ども達の機会を奪う（排除する）ようなことはなく、バレーをしたいと希望している子ども達を受け入れてあげて欲しい。<br><br>③ 今年度から子どもたちのフェアプレーや善い行いをつなげるためグリーンカードを適用していく。また、この活動を広げて欲しい。 |
| 質疑応答 | |
| 全体ディスカッション | 受講生の審判への質問に答える。 |

※ ルールブックを活用し、講義を行う。

※ １次講習は指導者のみならず保護者の参加もあります。審判をやりはじめた人もいるので、時間があればハンドシグナルの説明も行う。

全国小学生バレーボール指導者２次講習会
『審判法』講義の内容

| 内　　容 | 留　　意　　点 |
|---|---|
| 公益財団法人日本バレーボール協会　定款<br>第２章　目的及び事業<br>第３条　この法人は、わが国におけるバレーボール界を統轄し代表する団体として、バレーボール競技の普及及び振興を図り、もって児童・青少年の健全な育成及び国民の心身の健全な発達に寄与し、または豊かな人間性を涵養することを目的とする。 | |
| 小学生バレーボール連盟規約　第二章　目的　　第２条<br>本連盟は、わが国における小学生バレーボール団体を統括し、小学生バレーボールの普及発展を図り、もって、小学生の心身の健全な発達に寄与しその育成に努めることを目的とする。 | |
| １．１次講習会の復習 | １．小学生バレーの指導をする目的は勝つことだけではなく、バレーボールの指導や試合を通して子ども達の心と体の健全な成長を支えていくことである。これは、大会役員もチーム指導者・保護者・応援者も目指すものは同じであることが大切である。<br>２．小学生は人格形成の大事な時期であり、考え方や行動はまわりの大人の影響を受けやすい。指導者の言葉や態度は、子ども達に与える影響が大きいことを知ってほしい。また、保護者もそのことを理解しておくべきである。大人は子どもの模範となることが大切。 |
| ルール２０．１．１<br>**競技参加者は、公式バレーボール規則に通じてなければならない。また、それを忠実に守らなければならない。**<br>ルール２０、１、２<br>**競技参加者は、審判員の決定に対し、スポーツマンらしく反論せず、受け入れなければならない。** | |
| ２．スポーツマンにふさわしい行為 | ①　２０．１．１は一番の基本となる大切な考え方である。指導者自らルールを守るという姿勢を子ども達に示していくことが大切である。判定に対して文句を言うのではなく、その判定を受け入れる指導者であってほしい。特に、ラインジャッジの子どもへのクレームは例外なく「失格」の処分が適用される。<br>②　審判員に、ルールの取り扱いについて説明を求めることができるのは、キャプテンだけである。試合中にキャプテンとしての責務を果たせるように日ごろからリーダーとしての指導が大切である。<br>③　ルールを自分に都合のいいように解釈してはいけない。「書いてないからやってもいい」という考え方は間違いである。自分のチームだけがよければいいという考えでは、全てのチームがよくならない。<br>相手の立場を常に考えながら子ども達に指導をしていくことを忘れてはならない。<br>まわりの人に対して、配慮の気持ちを持つことが大切である。 |

| | |
|---|---|
| | ④ 子ども達の罰則に繋がるよくない行為に対しては、教育的指導を適用している。また、子ども達の善い行いに対しては、グリーンカードを適用することとした。（フェアプレー精神の育成） |
| ルール４．３．３．１　（ルールブック３２～３３ページ）<br>番号の色と明るさは、ジャージと対照的でなければならない。 | |
| ３．ユニフォームの色と番号について<br><br>※ 一つ一つサンプルを見せながら、受講生にも意見を聞いていく。 | ① まわりの人への配慮という観点でユニフォームの色と番号について話をする。サンプルを使って番号が見えにくい事例を考える。特に、<br>・ 銀色のナンバーは見えにくいこと。<br>・ 縁取りだけの番号は認められないこと。<br>・ 区別がつきにくい色合わせがあること<br>（赤と緑、オレンジと黄緑、緑と茶、青と紫、ピンクと白など）<br>・ はっきり見えるようでも汗をかいてくると見えづらくなる色の組み合わせがあること。<br>② 見える色は年齢によっても変わる。若い頃にはよく見えていたが、年齢を重ねるにつれて見えにくくなることもある。また、色の判別が出来ない子どももいることに配慮すべきである。<br>③ ユニフォームのデザインは子ども達の安全性を考え、番号の色は、記録員、相手、観衆など誰が見ても明らかに分かる色を使うことがまわりへの配慮であり、そのような精神を大事に育てたい。 |
| ルール５．２．３．４　（ルールブック３５ページ）　競技参加者　チームリーダー<br>監督は、試合を防げない、または遅延させない限り、アタックラインの延長線からウォームアップエリアまでの、自チームベンチ前のフリーゾーン内で、立ちながらでも歩きながらでも指示を出すことが出来る。<br>注）小学生連盟の取り扱いでは、監督はラリー中はベンチに座っていなければならない。 | |
| ４．監督としての態度<br><br>※ 監督制限ラインの説明 | ① このルールでは、監督がベンチから立ち上がってもいい条件を考えなければならない。監督がベンチから立つこと、またはベンチ前を歩くことができるのは、子ども達に指示を与えるためである。普段の練習とは違い、試合の緊迫した状況の中でタイミングよく子ども達に教えてあげなければならない。監督の立ち上がっての過度な応援やパフォーマンスを許可するためのルールではない。<br>② 体罰、暴力は絶対にしてはいけない。身体的な攻撃でなくても、言葉だけでも暴力となり得る。「そんなつもりではない」は通用しない。第三者が見てどう感じるかで判断される。 |
| ５．２日目の実技についての説明<br><br>※ （実技内容の資料を参照） | ① 笛の吹き方とタイミング、ハンドシグナルの示し方など、一次講習の復習も兼ねて話す。審判のハンドシグナルは、選手やまわりの人に、どの反則が起きたのか伝えるものである。基本的なハンドシグナルの他に反則のハンドシグナルもルールブックで確認する。<br>② 監督のベンチマナーやラインジャッジの実技について説明する。 |

全国小学生バレーボール指導者　２次　講習会（２日目）

『審判法』実技の内容

| 内　　容 | 留　　意　　点 |
|---|---|
| １．ラインジャッジの基礎<br><br>※ 指導者が子ども達に指導できるよう、実技を通して伝え方も考えてもらう。 | ① ラインジャッジの姿勢やフラッグの持ち方、フラッグシグナルの示し方を説明し、全員でやってみる。（ボールイン・アウト・ボールコンタクト・アンテナ外通過・サービス時の選手のフットフォルト等）<br>ラインに関する判定でボールと床の接点について、ボールを使って説明する。<br>・ ４種類のシグナルを２～３回ずつごとに交代しながら、フラッグを次の人に引き継ぐ。<br>・ コーナー付近に打たれたボールの判定を行う。L1とL2、L3とL4の組み合わせで、５本くらいずつで交代しながら行う。 |
| ２．モデル試合 | ① モデルチームがアップをしている間に、笛の吹き方とハンドシグナルの実技を行う。実技の試合を担当する主審・副審がモデルとなる。（サービス許可・ボールイン・アウト・ボールコンタクト・タイム・メンバーチェンジ） |
| ※ 実技の持ち時間はラインジャッジの基礎を含めて４５分間である。進み具合ににによっては１セット２１点までできない場合もある。 | ② モデル試合では審判員が指導をしながら試合を進める。注意事項がある場合は、ラリー終了後に試合を止めて解説する。<br><br>**③ 全国大会に実際あったケースをチームにやってもらう**<br>**＜監督の行為＞**<br>**・ 監督が記録席に最も近い位置に座っていない**<br>**・ 選手に指示を出さないで、ウォームアップエリアまで歩いていく**<br>**・ 横柄な態度でベンチに座っている（後ろを向く、腕や足を組む等）**<br>**・ 持ち込み禁止や不必要なものをベンチに持ち込む**<br>**・ タイム中にコートとベンチの選手を入れ替える**<br>**＜選手の行為＞**<br>**・ 相手チームにガッツポーズをする**<br>**・ プレーに関係ない選手がネットをひっぱって揺らす**<br>**・ 審判の判定に影響を与える** |
| ３．質疑応答 | |

※　ルールブックを活用し、講義を行う。

※　実技については、指導普及の講師、チーム選手と事前に打ち合わせを行う。

[illegible]

[illegible]

| 内　　容 | 留　意　点 |
| --- | --- |
| 1. [illegible]<br><br>[illegible]<br>[illegible]<br>[illegible]<br><br>2. [illegible]<br><br>[illegible]<br><br>[illegible]<br>[illegible]<br>[illegible]<br><br>3. [illegible] | [illegible]<br>[illegible]<br>[illegible]<br>[

全国小学生バレーボール指導者３次講習会

『４・６・９人制のルール』講義の内容

| 内　　容 | 留　　意　　点 |
|---|---|
| １．筆記試験の対策<br><br>※ 指導者からネット際の判定について質問してもらう<br><br>２．質疑応答 | ・ 時間が短いので、４人制・９人制については割愛する。<br>・ 筆記試験の問題に沿って、ルールや取り扱いの解説をしていく。（試験問題についてすべて触れることは難しい可能性がある）<br>・ 一般のルールと小学生ルールで取り扱いが違うところを話す。<br>・ オーバーネットの解釈について、ボールを使用しながら反則になるケース、反則ではないケースを説明する。→受講者に考えさせる。<br>・ 競技規則「第７章　競技参加者の行為」のルール２０．１「競技参加者はルールに通じてなければならないこと」「競技参加者はスポーツマンらしく反論せず判定を受け入れなければならないこと」やルール２０．２「フェアプレーの精神」を受講生に確認させる。<br>・ ネット際のプレーでは微妙なケースがあるので、場合によってはボールを使用しながら説明する。 |
| 筆記試験<br><br>採点 | 試験官の補助に入る。 |

全国小学生バレーボール指導者　３次　講習会（２日目）

実技試験についての説明（案）

| | |
|---|---|
| 実技試験の流れや大事な点の説明（資格取得者に必要） | ・ 時間があれば、実技試験の内容（下記別枠参照）を話す。<br>・ シグナルの示し方（サービス許可・ボールイン・アウト・ボールコンタクト）<br>・ 笛の吹き方（強く大きな音を出す）とタイミング |

審判法実技（試験）の内容（案）

| 内　　容 | 留　　意　　点 |
|---|---|
| １．サービス許可の吹笛とシグナル<br><br>２．ネット際のプレーの判定 | ・ 他のグループがサービスの実技をしているとき、資格取得希望者が台の上からサービス許可の吹笛とシグナルを行う。再試あり。<br><br>・ スパイク練習のとき、最終結果の判定をする。ボールイン・アウト・ダブルコンタクト・タッチネットなど。 |

※ ルールブックを活用し、講義を行う。

※ 実技試験の進め方については、指導普及の講師と事前に打ち合わせを行う。

※ 実技テストの再試は、直すところを伝えて正しく行わせること。

全国小学生ペーパー作文協議会

【4・5・6人組グループ】課題の内容

| 内　　容 | 留　意　点 |
| --- | --- |
| 1. 事前学習の実施 | ・学習内容（4人組・6人組）について説明する。<br>・事前調査（[illegible]）<br>（解答用紙）<br>・一覧表<br>・テーマ（[illegible]）<br>・[illegible]<br>・[illegible]<br>・[illegible]<br>・[illegible]<br>第一次提出 |
| ※ 指導者から[illegible]について説明してもらう。 | |
| 2. 実験観察 | |
| 観察実験 | 解説書の[illegible] |
| 観察 | |

全国小学生ペーパー作文協議会　[illegible]

[illegible]について説明

| 内　容 | 留　意　点 |
| --- | --- |
| 作文[illegible]の[illegible]をする。<br>例（[illegible]） | ・[illegible]<br>・[illegible]<br>・[illegible] |

[illegible]（実験）の内容（[illegible]）

| 内　　容 | 留　意　点 |
| --- | --- |
| 1. [illegible]<br>[illegible] | ・[illegible]<br>[illegible] |
| 2. [illegible]の[illegible]の[illegible] | ・[illegible]<br>[illegible] |

※ [illegible]

※ [illegible]

※ [illegible]